



2014年7月1日

各 位

会 社 名 キョーリン製薬ホールディングス株式会社
代表社名 代表取締役社長 山下 正弘
(コード番号 4569 東証第1部)
問 合 せ 先 コーポレートコミュニケーション統轄部長 宮木 修次
電 話 番 号 03-3525-4707

「悪性胸膜中皮腫を対象とする遺伝子治療用医薬品」の
JST産学共同実用化開発事業 (NexTEP) への採択について

キョーリン製薬ホールディングス株式会社の子会社である杏林製薬株式会社(本社：東京都千代田区、代表取締役社長 宮下三朝)は、独立行政法人科学技術振興機構 (JST) における産学共同実用化開発事業 (NexTEP) ※¹に応募しておりました「悪性胸膜中皮腫※²を対象とする遺伝子治療用医薬品※³」のプログラムについて、JSTから採択 (平成26年6月23日付) され、遺伝子治療用医薬品「Ad-SGE-REIC製剤」の開発を開始することに致しました。

今回、採択されましたプログラムの「Ad-SGE-REIC製剤」 (代表研究者：岡山大学大学院医歯薬学総合研究科教授 公文 裕巳) は、岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REIC/Dkk-3 (Reduced Expression in Immortalized Cells/ Dickkopf-3) を治療遺伝子として使用する遺伝子治療用製剤です。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を同時に誘導する遺伝子治療薬として、がんの原発巣への直接作用とがん転移巣への間接作用が期待されています。

一方、遺伝子治療用医薬品の開発における法的環境面は、昨年、薬事法が改正され、遺伝子治療用医薬品を含む再生医療等製品についてその特性を踏まえたうえで迅速かつ効果的に実用化を図るための「条件・期限付き承認制度」が創設されるなど大きく改善されました。このような状況に鑑み杏林製薬は、「Ad-SGE-REIC製剤」に関する技術やノウハウを有する岡山大学、およびその事業化を推進する創薬ベンチャー 桃太郎源株式会社※⁴と連携し遺伝子治療用医薬品「Ad-SGE-REIC製剤」の開発に取り組むことと致しました。

杏林製薬は国内外で患者数の増加が予想され、現行治療によっても予後不良であり、アンメットメディカルニーズの高い悪性胸膜中皮腫の患者さんに、一日も早く新しい治療薬を提供できるよう実用化に向けて開発に取り組んでまいります。

以上

【参考】

※1 産学共同実用化開発事業（NexTEP）とは：

独立行政法人科学技術振興機構（JST）が、大学等の研究成果に基づくシーズを用いて企業等が行う開発リスクを伴う規模の大きい開発を支援し、実用化を目指す制度です。

※2 悪性胸膜中皮腫とは：

胸腔または腹腔の内側を覆う膜に悪性腫瘍（がん）細胞が形成される疾患で、アスベストの曝露を原因として発症するとされています。厚生労働省の人口動態統計によると、日本における中皮腫による死亡者数は、1995年には500人、2004年に953人、2012年には1400人となっており、2030～2035年のピークに向けて今後も患者数の増加が予想されています。現行の治療によっても予後不良の疾患であり、より有用な新しい薬剤の開発が強く望まれています。

※3 遺伝子治療用医薬品とは：

疾病の治療等を目的として遺伝子又は遺伝子を導入した細胞を人の体内に投与することを「遺伝子治療」といい、「遺伝子治療」を目的に使用される医薬品を遺伝子治療用医薬品といいます。また、目的遺伝子を細胞に導入、あるいは人に投与するときに使われる運搬体を「ベクター」といい、ウイルスやプラスミド等が用いられています。今回、用いる「Ad-SGE-REIC製剤」は、アデノウイルスをベクターとして使用しています。

※4 桃太郎源株式会社とは：

桃太郎源株式会社は、岡山大学にて独自に単離・同定された新規の癌抑制遺伝子REIC (reduced expression in immortalized cells) のがん治療における高いポテンシャルに注目し、REICとその関連するシーズの臨床開発を進め、メガファーマ・製薬企業への橋渡しを実現するために2007年に設立された創薬ベンチャー企業です。